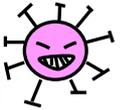


感染症に気をつけよう！



平成25年
【8月号】



横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
<u>てあしくちびょう</u> 手足口病	流行	増加	7月上旬から市全体で警報レベルです。現在も患者報告数の急増が続いており、特に1～2歳児で多く報告されています。下の解説をご覧ください。
<u>風しん</u>	流行	横ばい	例年より患者が多い状況が続いており、全国では先天性風しん症候群も発生しています。主治医に相談し予防接種を受けましょう。横浜市は接種費用を助成しています。【7月号】



今、気をつけたい感染症 手足口病

ウイルスの感染によって起こります。乳幼児に多くみられ、夏に流行します。大人でもかかることがあります。

軽い発熱の後、手足や口の粘膜に発疹や水泡ができるのが特徴です。約2/3の人では熱が出ません。ほとんどは1週間程度で自然に治りますが、ごくまれに髄膜炎・脳炎などの重い合併症が起きる場合もあります。

咳のしぶきや便等から感染し、ワクチンは無いので、予防には手洗いが重要です。患者の便からはウイルスが長い期間排泄され、3～5週間も続きます。そのため、小さいお子様が感染した時には、おしめを替えた際の手洗いをしっかり行いましょう。

「学校において予防すべき感染症」には含まれていませんが、登校・登園については、主治医に相談しましょう。



海外旅行先での感染症



夏休み中は、毎年、海外で感染症にかかる例が増加します。渡航先での感染症にも注意が必要です。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】